

家族と歩んだ幕末

かじん
留守を預かる家人たち

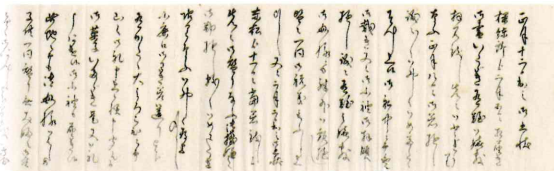
2023年 4月21日(金) ~ 8月6日(日)

幕末、海軍の創設や、動乱の兆しを見せる国内の融和を志して東奔西走した勝海舟。この間、留守を預った家族たちの存在は、海舟の活動の陰に潜んだまま、顧みられてきませんでした。

しかし資料を紐解くことによって、母や妻、子供たちといった“家人たち”がそれぞれ、海舟の要請と期待を理解した上で自ら役割を果たし、家を支えていた様子が明らかになってきました。近代に向かう激動の世を、海舟と家族たちはいかに支え合い過ごしたのか。本展ではその様子を資料から御覧いただきます。息子、夫、父としての知られざる海舟の素顔。そして、一家一丸となり激動の幕末に臨んだ様子を感じてください。



夫の留守中、家をよく治めた妻〈たみ〉

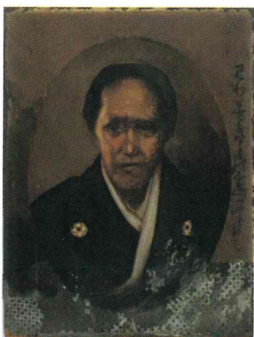


海舟の貧しい時代から支えた妻・たみ。左は、文久4年2月、たみが上方出張中の海舟に宛てた手紙です。文中には、卑近な事柄の報告から、江戸の政情や市井の物価高騰等に関する記述まで含まれており、たみの観察眼と深い洞察力が窺われます。そんな妻の才覚を、海舟は大層頼りにしていました。

文久4(1864)年 2月12日付<海舟宛> 勝たみ書状(部分)



息子を見守り続けた母〈のぶ〉



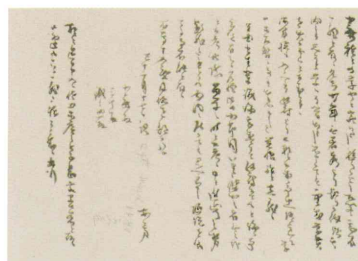
“小吉の女房”として知られる、海舟の生母・のぶ。夫・小吉(夢酔)の死後30年余り、江戸赤坂で息子夫妻と同居し、孫の養育のほか、嫁・たみや娘・じゅんと協力して家の留守を担いました。

左は修復前の様子です。汚れの沈着等による変色から回復した修復後の様子は、会場でご覧いただけます。是非お越しください!

勝のぶ肖像画(川村清雄作)



志を託した息子〈小鹿/四郎〉



海舟は38歳の時に初めて渡米し外国を見聞した経験から、留学による実地見聞の重要性を痛感していました。その志は息子たちに引き継がれ、小鹿は父の尽力によりアメリカ留学に赴きます。

左は、留学中の小鹿らに宛てた海舟の手紙で、学問に臨む際の強い覚悟を求めています。

明治2年12月17日(1870年1月18日)付
<小鹿ほか2名宛>勝海舟書状

Information

御礼

達成! クラウドファンディング
「家族展を実現させたい!」プロジェクト

勝海舟記念館では、海舟生誕200年の節目に、開館以来ご要望の多かった「海舟とその家族に関する展示」を実現すべく、2021年10月1日~12月31日にクラウドファンディングを行いました。目標額300万円を大きく上回る597万3000円のご寄附を賜り、プロジェクトを達成することができました。多くのご支援に深く御礼を申し上げます。

本展では、皆様からのご支援を活用して制作・修復した、

- I 特別展を解説したスペシャル映像
- II 海舟の母・のぶ(上掲)、次男・四郎の肖像画

を初公開いたします。

I



海舟の長男・小鹿の視点で、特別展の内容をナビゲート!
2階講堂正面の大型モニターにて、会期中は常時上映します。

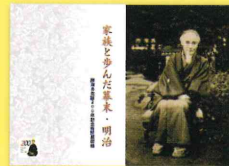
II



勝四郎肖像画

特別展 記念図録、発売

特別展「家族と歩んだ幕末・明治」の出陳資料を掲載した記念図録を発売します。掲載する資料はほぼ初公開! 解説や資料にまつわる歴史の秘話、絵画資料の修復の裏側も紹介します。



4月21日(金)発売予定!

8月11日(金)からは、次回展

「家族と歩んだ明治 海舟書屋へのいざない」が始まります。

海舟と家族たちは新時代・明治をどのように生きたのか。彼らが過ごした赤坂氷川邸の実態を交えて紹介します。お楽しみに!